

T A K U M I

## 令和4年度・第30回総会を開く 会を中心に社会貢献と自己研鑽の勉強を

信州名匠会(土本俊和会長)は6月23日、令和4年度(第30回)通常総会と記念講演会(参加者46名)を長野市のホテル犀北館で開催した。総会では、令和3年度の事業報告および会計報告、令和4年度の事業計画と予算を承認した。任期満了に伴う役員改選では、土本会長ほか現役員を全員再任した。

土本会長(信州大学教授)は、あいさつで「コロナが流行し2年間は総会を



書面決議で行っていたが、今年は対面で総会を開くことができる。名匠会には、30年ほど携わっているが、信州に対して非常に貢献度が高く、評価されている会だと思っている。若い人も入ってきており、世代交代もできている」と話した。物価の高騰に対しては「見積もりが合わず、お施主様に対して『この価格でできますよ』と言い切れないと聞いている。このような状況ではあるが、皆様の経験を活かし、社会貢献と自己研鑽を名匠会を中心に勉強していきましょう」と呼びかけた。



あいさつする土本会長

総会の記念講演は、富山大学芸術文化学部准教授で建築家の萩野紀一郎氏が登壇。「里山ぐらしのデザイン—土蔵修復からデザイン/ビルドまで」と題し、自身が能登に拠点を構えることにした経緯や活動内容などを紹介した。

総会終了後の懇親会では、会員37人が出席し、親睦を深めたほか、新年度の活動スタートを祝った。

### 令和4年度 信州名匠会 年間スケジュール

A 会員集会・委員会 B 学習・見学・実習 C 交流 カッコ内は担当委員会

#### 令和4年

- 6月23日(木) 令和4年度 第30回通常総会(総務)
- 7月16日(土) 第1回研修会A・C(総務・事業技術)
- 8月30日(火) 親睦スポーツ大会C(会員)
- 9月17日(土) 第2回研修会B(事業技術)
- 10月22日(土) 第3回研修会A・C(総務・会員)
- 11月12日(土)・13日(日) 研修旅行B・C(事業技術、協力:総務・会員)
- 12月14日(水) 第4回研修会B(事業技術)

#### 令和5年

- 1月18日(水) 新年会C(会員)
- 2月15日(水) 第5回研修会A・B(総務・事業技術)
- 3月15日(水) 第6回研修会B(事業技術)
- 4月15日(土) 第7回研修会「お花見」C(会員)
- 5月20日(土) 第8回研修会A・C(総務・会員)
- 6月22日(水) 令和5年度第31回通常総会(総務)

研修会 場所:基本会場(株)宮本忠長建築設計事務所 第2会場(株)降幡建築設計事務所  
時間:18:30~20:30 委員会の企画内容により異なる場合があります。  
※研修内容・場所・日時については決定次第順次お知らせいたします。

## 令和4年度通常総会

# 「里山ぐらしのデザイン

# ー土蔵修復からデザイン/ビルドまで」

富山大学 芸術文化学部 准教授・大学院 芸術文化学研究科 准教授

萩野 紀一郎 氏



講演する萩野氏

総会恒例の記念講演では、富山大学芸術文化学部准教授で建築家の萩野紀一郎氏が「里山ぐらしのデザインー土蔵修復からデザイン/ビルドまで」をテーマに登壇した。萩野氏は、アメリカ留学時のフィラデルフィア郊外での生活の中で、コミュニティの強さ、古い建物の活用、歴史や文化が大切にされている様子を目にする。永住を望んだが、留学の制度のため帰国。東京での暮らしに逆カルチャーショックを受けるも「建築の仕事を通じて左官や木造建築、日本ならではの素晴らしさに気づかされた」と話す。

アメリカでは、資材を買って自分たちでDIYをする状況を見てきたが、日本では「住宅は造るものではなく買うもの」との認識が多い。それについて、「家は一回住み始めてからがスタートなので、お客様には住みながら家を育てて欲しいと思い、工事に参加してもらおうようにしていた。大工さんや職人さんには負担になったと思いますが」と萩野氏は語る。

能登を初めて訪れたのは2000年の夏、そこから夏休みを能登で過ごすようになる。その後2度の渡米を経て、「木や土を活かしたことをやりたい」と考えて能登への移住を決めた。山林を買って、木を切るところから半自力で住宅をつくり始めた。

2007年3月に能登半島地震が発生。輪島塗の土蔵が立ち並んでいたが、地震で大きな被害を受けたため、萩野氏も復旧作業にあたった。「土蔵を直す事例を増やすようにしなければと考えた。左官職人・久住草さんが音頭をとってくれたので全国から左官職人、学生、市民などのボランティアが集まり、土蔵の修復に取り組んだ」。震災からの復旧や土蔵の修復を通じて、塗り物文化の復興、左官技術の伝承につながったと話した。

教壇に立つ富山大学では、「手で考えて身体でつくる」ことを大切に、学生たちに指導している。住宅設計の前に、椅子を作り、小屋を作ることで「実際に手でモノをつくることでデザインのヒントがある」と説いた。



能登まるやまの家ー半自力建設

## 十ツ星1名の新認定者が誕生

### ～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月1回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成11年に創設された。研修会へ1回出席するごとに1単位を加算し、10単位で星1つを与える。今年は新規認定者1名（認定者総数68名）が誕生し、通常総会において認定証を授与された。貴重な研さんの場である定例研修会への、会員諸氏の精力的な参加に、ますます期待が高まっている。

### ◆「スリースター制度」令和3年度新規認定者

(令和4年6月現在、敬称略。紙幅の関係で新規認定者のみ掲載いたします)

☆☆☆十星1名☆☆☆

内山 保/朝陽工芸(有)

## 令和3年度 事業報告 (人数は参加者)

### 令和3年

- 6月30日(水) 第29回通常総会【書面決議】 投票者数 56名
- 7月31日(土) 第1回研修会 地域材伐採現場 長野森林組合 春日賢一氏 19名
- 9月1日(水) 親睦ゴルフ大会 長野カントリークラブ 12名
- 11月14日(日) 令和3年度 信州名匠会研修旅行「十日町」[清津峡深谷トンネル・森の学校キョロロ・越後松山温泉凌雲閣・越後妻有交流館キナーレ・十日町情報館・十日町新博物館]見学会 19名
- 11月27日(土) 第2回研修会「国宝旧開智学校校舎耐震改修工事」現場見学会(当会会員) 藤松幹雄氏、旧松岡医院見学会(当会会員)川上恵一氏 21名

### 令和4年

- 1月26日(水) 「たぐみ」No47 新春号発行
- 4月9日(土) 「松代藩文武学校」見学と陶芸教室 (株)N建築設計事務所(当会会員)西澤 嘉雄氏 14名
- 5月21日(土) 第4回研修会「松田家主屋復元工事」完成見学会 (株)N建築設計事務所(当会会員) 西澤 嘉雄氏 30名
- 10月、12月、2月、3月 研修会および見学会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

## 平成3年度 会計報告書

自：令和3年6月1日／至：令和4年5月31日

## 令和4年度 事業予算書

自：令和4年6月1日／至 令和5年5月31日

### 会員の動向 (令和3年6月～令和4年5月末日。敬称略)

#### ■新会員 賛助会員■

黄 聖男／(株)カネト／建材／北佐久郡御代田町大字馬瀬口  
1747番地1 電話：0267-32-8001

#### ■担当の変更 賛助会員■

(株)ライフエンジニアリング	前任)樋口 豊	新任)岡田 直也
サンコー特機(株)	前任)白石 大陸	新任)大内 健太郎
(株)新建新聞社	前任)新井 庄市郎	新任)三浦 祐成

### 懇親ゴルフコンペ 五明良平氏が優勝

スポーツを通じ会員同士の親睦はかる恒例の懇親ゴルフコンペが、8月30日に長野カントリークラブで行われた。心配された雨はほとんど降らず、心地よい気候の中、仕事を忘れ和気あいあいゴルフを楽しんだ。今回は、16名が参加。懇親ゴルフコンペ初出場2名、ベテラン・若手の飛ばし屋がそろう中、ベテラン実力者の五明良平さんが、見事優勝された。プレー後のパーティーでは、坂田専務理事から各賞が渡され、ベテランから若手まで、プレーを振り返りながら親睦を深めるひとときとなった。

参加者は次の通り(順不同、敬称略)

坂田守夫／坂田工業(株)、宮本夏樹／(株)宮本忠長建築設計事務所、高橋志行／(株)むね工房、落合一視／落合コンサルタント、五明良平／(株)五明、水沢仁亮／(株)二見屋、黒澤忠雄／クロサワメタル(株)、西宮登喜男／(株)綿内瓦工業、小坂浩一／小坂建設(株)、左右田光／(株)インテック左右田、増田幸雄／匠建設(株)、内山保／朝陽工芸(有)、黄聖男／(株)カネト、西澤広智／(株)宮本忠長建築設計事務所、荒井孝明／(株)本久、黒崎紀彦／(有)黒崎建設



# 令和3年度研修旅行 十日町日帰りの旅

令和3年度研修旅行は、新型コロナウイルスの影響緩和を受け、11月14日に19名が参加し十日町への日帰りで行われた。越後松山温泉凌雲閣で、地元食材を大切にされたコース料理と温泉を堪能。日帰りという時間の制約の中、雪国の建築について十分に学び、充実した一日になった。

## 豪雪地帯の気候と景観に配慮した建築に感嘆

清津溪谷トンネル(設計:MADアーキテクツ)は、昭和63年に閉鎖した清津登山道の代替施設として、清津峡溪谷の溪谷美を安全に鑑賞できる歩道トンネルとして平成8年に開航した。平成30年に、十日町市・津南町で3年に一度開催される「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」に合わせて、「Tunnel of Light」としてリニューアルした。トンネルの全長は約750m。その内部に3つの見晴所と「パノラマステーション」と呼ばれるスポットがあり、それぞれに自然の「5大要素」(木・土・金・火・水)をモチーフにした建築的空間とアーティストックな雰囲気が演出されている。

森の学校キョロロ(設計:手塚貴晴・手塚由比・池田昌弘)は、日本有数の豪雪地帯松之山の山中に位置する自然科学をテーマとした教育研修施設。建物の長さは約160m、その端部に高さ34mの塔がそびえたつ。蛇のような平面形状は敷地周辺を巡る散策路をイメージして計画されていることがうかがえる。

越後松之山温泉凌雲閣は、日本三大薬湯とされる松之山温泉に位置する3階建ての木造建築物で、国の登録有形文化財。建設年は昭和13年。当時の亭主が群馬・渋川から宮大工を呼び寄せ、一人一室ずつ担当して意匠を競わせたといわれている。14室ある部屋は、天井仕上や床の間など、それぞれの宮大工の趣向をうかがえる造作であった。

越後妻有交流館キナーレを経由して十日町市博物館を訪れた。この施設は、国宝の縄文土器などを展示する博物館。建物の外観は、「土器」、「織物」、「雪」をテーマに、白を基調とする。南西側立面を雪の結晶と織物をイメージしたスクリーンで覆い、また、建物正面上部とエントランス横の壁面は縄文土器の模様をモチーフとしたデザインとなっている。

十日町情報館は、十日町市博物館に近接した2階建ての図書館(設計:内藤廣建築設計事務所)。建物内部は階段状の一般開架スペースを中心に、その周囲に児童開架スペース、研修室、喫茶コーナー等、様々な世代が集い、情報を通じた交流が行えるよう計画されている。大空間を実現しつつ、冬季の積雪に対する対策として、11.6mスパンの柱上部の屋根にプレストレストコンクリートのピースを組み合わせ、ポストテンションで合体させている。構造体による機能美が協調された建築物であるといえよう。

## 令和3年度研修旅行【十日町日帰りの旅】参加者名簿 (19名。氏名/所属。順不同、敬称略)

土本俊和/信州大学、内山保夫人/(有)朝陽工芸、金田勝良/(有)金田工業、高橋志向/(株)むね工房、中沢清光/(株)エヌ・テック、堀内太一/(有)泉秀園、増田幸雄/匠建設(株)、犬飼栄治/(株)シナノ大理石、久保敏幸/(株)さつき苑、祢津吉通/(株)ミツルヤ製作所、福島一明/(株)北信帆布、米田満/(株)山二、五明良平・夫人/(株)五明、宮本夏樹・西澤広智/(株)宮本忠長建築設計事務所、太田奨吾・大槻拓也/当会事務局



森の学校キョロロ



清津溪谷トンネル



凌雲閣



十日町情報館

# 定例研修会●Report

(令和3年12月～令和4年9月)

## 令和3年度第3回研修会 【松代藩文武学校見学と陶芸教室】

令和4年4月9日(土)

講師：(株)N建築設計事務所(信州名匠会会員) 西澤 嘉雄氏  
参加者：14名

新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、令和3年12月研修会、令和4年新年会、そして2月、3月の研修会の開催を見合わせ、感染者数が減少した4月に、毎年恒例の松代見学会とお花見、陶芸教室を開催した。

### 松代の風土の中で深まる親睦



松代文武学校

初めに松代藩文武学校を訪れた。この施設は、文武を奨励した松代藩八代藩主・幸貫が水戸の弘道館にならって計画し、九代・幸教の時代に完成した松代藩の藩校。1953年(昭和28年)



松代陶苑での陶芸体験

に国の史跡に指定されている。2011年から2021年10月かけて耐震改修工事が行われた。創建時の営みが垣間見える、威厳のある建物であった。

松代城址公園で昼食をとった後、咲き始めた桜の花を楽しみながら松代陶苑にて陶芸体験を行った。2時間という短い時間であったが、参加された方々の創作された陶芸は、個性あふれる力作が並んでいた。

## 令和3年度第4回研修会 【松田家主屋復元工事完成見学会】

令和4年5月21日(土)

講師：(株)N建築設計事務所(信州名匠会会員) 西澤 嘉雄氏  
参加者：30名

### 昔の大工の凄さを実感

令和3年度第4回研修会は、前年5月に訪れた千曲市八幡の松田家主屋復元工事の完成見学会として、設計監



理を担当された西澤嘉雄氏に案内していただいた。

平成29年9月に焼失した主屋の復元工事は、信州名匠会の会員の力を結集して作業が進められてきた。「この面積でお金と材料の裏付け、下打ち合わせがないとこれだけの図面は描けない。昔の大工の凄さが分かる。みなさんにとっても思い出に残る建物になったのではないかと思う」。



建物は、古民家に特有の田の字型の間取り、真壁構造で、漆喰仕上げの壁、三和土の土間といった伝統的な日本家屋の容姿である。「屋根には特に苦労した」と振り返る西澤氏。腰屋根根が一間伸びていて、排煙設備を設ける必要があった。

和室について西澤氏は「おもてなしの精神が随所に反映されている。縁側越しに庭を眺めていると、物語が生まれてくるようだ。障子を通したやわらかな陽光を、現代の素材でどう表現するかも問われた」と語る。

「昔の姿の忠実な復元を取るか、一つひとつ決めていかないといけない。意匠側の意見と消防面からの視点、用途も実際に使う立場に立って考えないといけない。常に自分なりにジャッジする必要があった。職人さんにしてみれば早く決めてくださいということだろうし。そうしたせめぎ合いの中で形にしていくことは、大変だけれども、モノづくりの世界の醍醐味だと思う」と感慨を込めて語っていた。

## 令和4年度第1回研修会 【信州大学繊維学部施設(真綿・蚕糸館、講堂、貯繭庫、旧千曲会館)見学会】

令和4年7月16日(土)

講師：  
信州大学工学部建築学科教授(信州名匠会会長) 土本 俊和先生  
信州大学工学部建築学科教授 羽藤 広輔先生  
参加者：25名

### 繭をイメージした設計コンセプトの表現を現場で学ぶ

令和4年度第1回研修会は令和3年6月に竣工した、信州大学繊維学部(上田市)のキャンパス内にある真綿・蚕糸館、講堂、貯繭庫、旧千曲会館を見学した。



真綿・蚕糸館の外観

研修会前半は信州大学工学部建築学科の土本俊和教授（信州名匠会会長）と羽藤広輔教授のお二人が共同で設計した真綿・蚕糸館を、お二方にご説明いただいた。

真綿・蚕糸館は、一般財団法人日本真綿協会からの申し出を受け、寄贈された施設で、繭をイメージした設計コンセプトをもとに設計された。建物外観は打放しコンクリートとすることで、繭の包皮のようなイメージを連想させる。また型枠の杉は内部に回る螺旋状スロープと同じ勾配（1/12）をつけており、入口上部には繭を3つ積み重ねた形をモチーフとした窓のある意匠となっている。

建物内部では、1Fから2Fまで螺旋状のスロープが回っており、スロープを巡りながら真綿や蚕糸に関わる技術や文化を体験できるスペースが配置されている。1F中央に八角形に面取られた「棟持柱」が6本配されている。棟持柱は土本俊和教授が長年研究対象にしている分野で、棟持柱を原初とした建築の歴史は真綿の歴史にも重なるとのこと。またこの棟持柱は長野県産のカラムツを使った集成材で柱下部は四角形に近い形で成形し、上部に行けば行くほど細く、八角形が強調される形の柱となっている。さらに1F中央には棟持柱をモチーフとした八角形を基本形としたオリジナル家具が設置されている。

研修会後半は上田市蚕糸専門学校設立時の歴史を色濃く残す講堂、貯繭庫、旧千曲会館を見学し、当時の建築様式や改修方法についてご説明いただいた。



真綿・蚕糸館の内部



講堂の内部

## 令和4年度 第2回研修会 【置屋根・土壁・伝統工法 『力石の家』見学会】

令和4年9月17日（土）

講師：小坂建設(株)（信州名匠会会員）小坂 浩一氏

参加者：24名

### 木が持つ変形性能と復元力を活かす柔構造を学ぶ

第2回研修会は令和3年度「信州の木」建築賞の優秀賞に選ばれた「力石の家」を見学した。

当会会員の小坂浩一氏を講師に、研修会前半は坂城町の中心市街地コミュニティセンターを会場に、小坂氏が「力石の家」を建てる際に骨格とした「伝統構法による家づくり」について講演した。



力石の家の内部



庭先から日当たりのよい縁側を見る

小坂氏は「ヒノキは伐採後200年かけて強度を向上させ、さらに1000年以上かけて伐採直後の強度に戻っていく」とした。さらに、阪神大震災や東日本大震災でも多くの木造建築が残ったことに触れ、昔ながらの伝統建築について「木が持つ変形性能と復元力を活かした柔構造とすることが地震に対する安全性の基本。金物に頼った剛構造には限界がある」と指摘された。



柔構造の木組みディテール

研修会後半は「力石の家」に移動し、見学会を快く受けていただいた施主のご家族と小坂氏による説明を聞きながら、住宅を見学させていただいた。

家づくりにあたっては、夏の暑さへの対応や置屋根へのチャレンジとして屋根の浮揚力に難渋したことなどが小坂氏から語られ、施主のご主人からは、伝統構法による家づくりにあたり、知識を一から学んだ過程についてご説明いただいた。